

JR灘駅南側駅前広場アート作品の概要

	作品名	作者名	設置期間	作品のコンセプト	作者プロフィール	写真
①	Mothership	三松拓真	2024年4月～ 2027年3月 (3年間)	582号は1971年に神戸市電が廃止になり、神戸市から広島に移籍してきました。この582号に揺られ眠りたくなった経験は、ゆりかごの様に感じ、毎日人々を送り出し、見守って来た姿は母の様な存在に思えました。 神戸生まれの父は、市電をよく利用していたこともあり、小学3年生の時に廃止になったことを鮮明に覚えていました。この作品は現在、広島を走っている路面電車(神戸市電)582号の母性を引き出すことを目的として路面電車の子供を制作しました。	1998年 大阪府生まれ、広島県在住 2023年 広島市立大学大学院芸術学研究科博士前期修了 動物と乗り物を組み合わせた力強く、ユーモラスな木彫作品や日常で出会った出来事をテーマに描くドローイング作品を制作している。	
②	海へ行く	安井源太	2024年4月～ 2027年3月 (3年間)	ある日、我が子がかわいい猫の絵を描きました。これは木彫りで立体化したいと思立ち、小さな彫刻を作りました。立体になった自分の作品を親で喜びの姿からプロジェクトの構想が膨らみ、面白い絵を描く子供を紹介してもらい、子供の描いた絵をもとにチェンソーを使って彫刻を製作し、展覧会を行いました。作品の売上の一部は絵を描いてくれた子供にお渡ししています。 子供たちの自由な発想から多くのことを教わりながら製作しています。	大阪芸術大学卒業 神戸市垂水区出身 「Studio KUROI」主宰。美術作品の製作と、プロダクトデザインの分野で国内外で活動している。 2007年 個展 番画廊(大阪) 2013年 個展 Gallery2(神戸) 2014年 アートフェアBAMA(釜山) 2015年 アートフェアULTRA(東京) 2017年 個展 Gallery7(神戸) 2023年 個展 Bricolage(神戸) 2023年 個展 MU東心斎橋画廊(大阪)	
③	Hello Goodbye	白井翔平	2024年4月～ 2029年3月 (5年間)	神戸は山と海に挟まれた特徴的な街であり、港を中心に文化が融合していった歴史があります。現代は分断の社会になっていると言いますが、震災を経験したこの街は、協力し合える優しい社会になれるはず。タイトルの「Hello Goodbye」には対立する概念を融和する、あるいは包摂するといった意味を込めています。ご鑑賞の際は作品の造形だけでなく、ご自身の内面にも目を向けて頂けると幸いです。 ◇この作品は神戸ビエンナーレ2015 しつらいアートに入賞した作品の一部で構成されています。	兵庫県芦屋市出身(1989～) 2013年 東京藝術大学美術学部彫刻科を卒業 2015年 東京藝術大学大学院修士課程美術研究科彫刻専攻を修了	
④	sky bottle-Kobe-	吉田延泰	2024年4月～ 2029年3月 (5年間)	六甲山系から海へ 水が巡る街神戸 緑環を紡ぐ 日本酒やラムネ、アップル、サイダー(鉄砲水)と共に、文化が往来してゆく様に願いを	2010年 ぐらす庵主宰 started school & studio Glass an 2011年 Naked Craft Project,Kobe glass art residence,curator 2020年 蒼庫-ramune factory-curator,artisan share studio 2019年 神戸文化奨励賞 Kobe cultural encouragement award 2020年 神戸長田文化賞 Kobe Nagata cultural award 2021年 兵庫県芸術奨励賞 Hyogo art encouragement award	
⑤	case	武田真佳	2024年4月～ 2027年3月 (3年間)	caseのひとつの意味はなにかをに入れるための入れ物です。ギターケースやミイラの棺のような入れ物はその中身に近い形状をしています。それを入れるためだけのかたちです。ここでおもしろいのは、たとえギターやミイラが無くなってもその入れ物は物体として存在するという事です。その中身を待つかのように、あるいは蝉の抜け殻のように、外側の表面だけが在る場合があります。この作品は頭に浮かぶイメージの外皮を作ったものです。	2023年 京都市立芸術大学卒業 2022年 個展「今までしてきたこと、きっとこれからもしていくこと」 企画展示「imaginary enemy」 2023年 六甲ミーツ・アート 芸術散歩 2023 beyond 出展	
⑥	共生	金愛子	2024年4月～ 2029年3月 (5年間)	私達は命ある限り常に、自然や動物達と共存し合い、何が欠けてもいけない関係性にあります。 神戸の海の波や風、ここから見える景色が 結び合い、調和し合い、すべてのものが“共生”するというテーマの作品です。 ギリシャの神話の時代から、幸福のシンボルとされている蝶々をモチーフに、自然、芸術、人の幸せがループするように表現しています。 この作品の前で足を止めた人が、その瞬間、自然や全ての事柄に思いを馳せられるように願いを込めて。	彫刻家・立体造形作家。神戸市出身。 心象を人の身体などに具現化した作品を制作する。ロンドンや韓国など国内外のコンペティションでの受賞歴、ベネチア、パリでも展示を行う。 London International creative competition, Create(Art)-Professional Finalist 受賞 (2021)	
⑦	白い景体 -White landscape object-	岡田健太郎	2025年3月～ 2030年3月(5 年間)	山や、工場、夜空を見上げれば月、足元には石や水。私たちが暮らす世界は無数の事物から成り立っている。それらの中から私が気になる要素をモチーフにして、組み合わせ、自立する一つの形にしています。素材は、ステンレス丸棒。切断と溶接を無数に繰り返して、五角形の組み合わせを基本にした籠状の六つの形が重なり合った一つの塊になっています。 神戸の景色も自然と人の営みが混ざり合いながらあります。ここから見える街並みや、通り抜ける風、小さな生き物、目に見えない物質、これを見る人々。様々なものが重なり合い日々の景色が少し変化して立ち現れていきます。	1977年 岡山県出身、神奈川県在住。 2002年 武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業 2024年 神戸六甲ミーツアート 2024beyond 金属の棒を網状に繋ぎ、風景を主題にした彫刻を制作。個展やグループ展、野外彫刻等の造形活動を行っている。	